

経営倫理（2022年度）シラバス 担当：國部克彦

<目的>

本講義は、企業の倫理 (business ethics) ではなく、経営に関与する人間の倫理 (management ethics) という観点から、経済のロジックを超えた地点にある倫理を企業活動の中に反映させるためには何が必要なのかをレスポンシビリティ（責任）と価値創造の概念を軸に議論する。さらに、経営倫理の理論面の講義に加えて、環境問題や新型コロナウイルス感染症などのトピックも取り上げて、現代社会における倫理的問題を深く探究する。

<講義の進め方>

- 講義を受ける基礎知識として、神戸大学専門職大学院 MBA 編『プレ MBA の知的武装』中央経済社、第 14 章、品川哲彦『倫理学入門』中公新書を、受講前に読了しておくこと。
- 講義ごとに事前課題と参考文献を示しているのので、事前課題を作成するときには、これらの文献を参考にすること。
- 講義では講義とディスカッションを組み合わせる。

<評価方法> （合計：60 点以上を合格とする）

- ①事前課題レポート : 10点×4回
- ②事後課題レポート : 60点

<事前課題レポートの提出の仕方>

4回の講義ごとの課題についてレポート（A4で1枚、1000字程度）を作成し、講義開講週の木曜日正午までに BEEF で提出する。ディスカッションでは、レポートを中心に議論するので、その前提でレポートを作成すること。（提出の遅れたレポートは 20%減点することとし、講義日以降の提出は受理しない。また、レポートの提出のみで講義に出席しない場合は 50%減点とし、3回以上の欠席は不可とする。）

<事後課題>

あなたの所属する組織にとっての倫理的な課題は何か。そして、それはどのようにすれば改善できると考えるか。本講義で学んだことに触れながら 3000 字程度で論じよ。締切日は別途指示する。

*課題テーマは、組織に所属していることを前提としているが、もし個人事業の場合は、日本企業一般について論じること。

<各講義の概要>

第1講 公共性と責任（2023年1月21日）

ビジネスにおける倫理問題はすべて経済と人間の関係から生じていることを、アーレントの公共性理論を踏まえた上で、私的な経済から人間を回復させる根拠として、レスポンシビリティとしての責任の重要性について、レヴィナスやデリダの理論をもとにして無限責任の概念を学ぶ。

事前課題1：あなたの所属する組織での公と私の区別と、社会一般での公と私の区別は同じであろうか。組織活動において、公と私の境界線はどこに引かれるべきか。無限責任の考え方を踏まえて論じよ。

（レポート締切日 1月19日正午）

参考文献

國部克彦『アカウントビリティから経営倫理へ』有斐閣、第1章、第2章

國部克彦他『創発型責任経営』日本経済新聞社、第1章、第2章

第2講 リスク社会における責任と判断（1月28日）

今世紀に入ってから、9.11テロ、リーマンショック、福島原発事故、新型コロナウイルス感染症パンデミックなど、さまざまな危機に見舞われており、現代社会のリスクは高まっている。このようなリスク社会において、個人はどのような責任を果たし、判断を下すべきか。無限責任の考え方をリスク社会に展開し、さらにクリフォードの信念の倫理を参考に私たちの行動指針を考える。

事前課題2：あなたの所属する組織のリスク管理に問題はないか。もしあるとすれば、それはどのような点でなぜその問題が解決できないのか。解決するとすれば、どのような方法があるかを考えよ。

（レポート締切日：1月26日正午）

参考文献：

國部克彦他『価値創造の考え方』日本評論社、第2章

國部克彦『ワクチンの境界—権力と倫理の力学』アメージング出版、第2-4章

第3講 ESG 経営と創発型責任経営の意義（2月4日）

気候変動問題やSDGsへの関心が高まっているように見えるが、社会一般で主張されていることにどこまで根拠があるであろうか。ESG経営にまつわる多くの言説が幻想であることを明らかにし、地に足の着いたサステナビリティ経営を実践するための創発型責任経営の意義を議論する。

事前課題3：あなたの所属する組織のESG経営は真剣に取り組まれていると思うか。真剣に取り組んでいる場合でも、そうでない場合でも、なぜそうなのかを考えよ。

（レポート締切日 2月2日正午）

参考文献：

國部克彦他『創発型責任経営』日本経済新聞出版社、第3章以降
國部克彦『アカウンタビリティから経営倫理へ』有斐閣、第4章

第4講 価値創造と倫理（2月11日）

経営倫理は、組織の中の倫理ではなく、社会の倫理を組織の中で実践することである。そのためには、社会的課題としての価値創造が重要な役割を担う。価値創造の本質を議論したうえで、価値創造が倫理とどのように関係し、組織を改編する可能性があるのかについて、プラグマティズムの観点から議論する。

事前課題：あなたが、所属組織から社会的価値創造を命じられたら、どのような価値創造のプランを考えるか？具体的に提案せよ。

（レポート締切日：2月9日正午）

参考文献：

國部克彦『アカウンタビリティから経営倫理へ』有斐閣、第5章
國部克彦他『価値創造の考え方』日本評論社、序章、終章
國部克彦他『価値創造の教育』神戸大学出版会、第1章、第4章

<講義担当者連絡先> kokubu@kobe-u.ac.jp